

繋ぐ術
TSUNAGU JUTSU

「田中忠三郎が伝える精神」

東北の民俗衣コレクションと現代美術

会期=2014年11月1日(土)–2015年2月15日(日)

[基本情報]

展覧会名= 田中忠三郎が伝える精神 (読み方: たなかちゅうざぶろうがつたえるせいしん)
会期= 2014年11月1日(土)–2015年2月15日(日)
会場= 十和田市現代美術館ほか
開館時間= 9:00-17:00 (入場は閉館の30分前まで)
休館日= 月曜日 (月曜が祝日の場合はその翌日) ただし、12月26日(金)–1月1日(木祝)は冬期休館。
観覧料= 企画展+常設展セット券 1000円、団体 (20名以上) 100円引き、高校生以下無料
主催= 十和田市現代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
共催= 青森放送株式会社
企画協力= アミューズ ミュージアム、十和田市郷土館
協力= 青森県立郷土館、暮らしのクラフトゆずりは、佐藤陽子こぎん展示館、南部裂織保存会、南部菱刺研究会、ヒトとテシゴト会、弘前こぎん研究所、星野リゾート 青森屋、三沢市寺山修司記念館、山本現代
協賛= ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
後援= 十和田市教育委員会

* 特別連携相互割引企画: アミューズ ミュージアム『布の絵画BORO~美しいぼろ布展~』

お問い合わせ

十和田市現代美術館 佐々木美華子

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

展覧会概要

古来人々は過酷な自然との闘いの中で生き抜くために、手に入る素材から必要な衣類や道具を生み出し、伝え、生活文化を培ってきました。日本列島本州最北端の青森の地においても、雪に閉ざされた厳しい冬を乗り越えるために様々な生活の道具や技術が伝えられています。

本展では、青森に生まれ育ち、そうした文化を調査研究してきた田中忠三郎が生涯をかけて収集した衣服や民具とともに、独自の視点で様々な素材に向き合ってきた現代の作家作品もあわせて展示します。

「縫う」「刺す」「繋ぐ」等の様々な行為の先には、どのような世界が広がっているのでしょうか。ひと刺し、ひと継ぎといった行為は些細なものですが、それが時とともに積み重なり形になってゆくとき、そこにはどのような生き方が映し出されるのでしょうか。田中忠三郎のコレクションは、自然環境が厳しければ厳しいほど、また人間が弱ければ弱いほど、それらは力強いものとなって現れるということを告げています。

安価で使い捨てを促す現代のなかで、身の回りのものに手を加え、繰り返し生み直してゆく行為が開く世界。その世界の様々な場面を織りなしてきた手わざの跡と生き方に触れてみてください。

[田中忠三郎 プロフィール]

1933年青森県生まれ。民俗学者・民俗民具研究家・著述家。民具の調査・収集に奔走してきた在野の学者で、私有する2万点以上に及ぶ民具・衣服などの貴重な日本のアンティークコレクションでも有名。これらコレクションは柳宗悦、青山二郎、白洲正子らの流れを汲む「用の美」を体現するものとして、寺山修司、黒澤明、都築響一らが作品制作のために借り受けた。またこの他に所有する古書・近世文書のコレクションも1万点を超える。歴史学者はもとより棟方志功や高橋竹山ら芸術家・文化人との交流も深い。2013年没。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 佐々木美華子

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

参加作家

田中忠三郎
Chuzaburo Tanaka



天羽やよい
Yayoi Amo



泉山朗士
Road Izumiyama



平田哲朗
Tetsuaki Hirata



伏木庸平
Yohei Fusegi



村山留里子
Ruriko Murayama



山下陽光
Hikaru Yamashita



リトゥンアフターワーズ
writtenafterwards



本展のみどころ

～美術館で手わざを楽しみませんか？～『手わざ工房』オープン

会期中、美術館内に「手わざ工房」という手づくりスタジオをオープン。刺し子や刺繍、手仕事を極めるもよし、指相撲やあやとり、手遊びで遊ぶもよし。「手わざ」を使うものなら何でもOKです。工房は部活動の部室として利用できます。（事前申請が必要です。くわしくはウェブサイトをご覧ください。）この冬、手を動かす楽しさをぜひみつけてください。

[内覧会・オープニングレセプションのご案内(ご招待者、プレス、関係者のみ)]

一般公開に先立ち、出展アーティストを迎え内覧会及びオープニングレセプションを行います。

内覧会：10月31日（金）16:00－18:00/レセプション：17:00－18:30

[セレモニー(どなたでもご参加いただけます)]

日時：11月1日（土）10:00－10:30

[会期中のイベント、パブリック・プログラム（予定）]

・トークプログラム①

山下陽光（アーティスト）× 辰巳清（アミューズ ミュージウム 館長）『田中忠三郎について語る』

日時：11月1日（土） 14:00－15:00

定員：50名（事前申込優先）

料金：無料（要展覧会チケット）

・泉山朗土 映像作品上映会『名前のない道～TOUR DE TSUMARI』

日時：11月1日（土） 上映 17:30－18:10 トーク 18:20－19:00

定員：50名（事前申込優先）

料金：無料（要展覧会チケット）

協力：silent voice

・バスツアー『消えゆく昔の暮らしを体験し 「物にこめられた思い」をうけとる旅』

（青森・十和田 アートな旅 純朴編より）

日程：11月2日（日）出発

* 詳細は美術館ウェブサイトをご覧ください。

・ワークショップ『南部菱刺し体験』

布と糸から生まれる青森県南部地方に伝わる南部菱刺しの技法で小さな作品を作ります。

講師：山田友子

日時：11月23日（日） 1回目10:00－12:00/2回目13:30－15:30

定員：各回10名 [申込受付期間：－11月16日（日）。定員に満たない場合当日受付あり]

料金：1500円（材料費込）

お問い合わせ

十和田市現代美術館 佐々木美華子

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

・ワークショップ『津軽こぎん刺し体験』

青森県津軽地方に伝わり磨かれてきた、津軽こぎん刺しの技法でコースターを作ります。

講師：弘前こぎん研究所

日時：12月7日（日） 13:00－15:00

定員：15名〔申込受付期間：－12月2日（火）。定員に満たない場合当日受付あり〕

料金：2500円（材料費込）

・ワークショップ『南部菱刺しでよみがえる思い出の服たち』

古くなった服や、思い出の服に、思い思いの菱刺しを刺して、よみがえらせてみませんか？

講師：山田友子

日時：1月10日（土） 13:00－16:00

定員：6名〔申込受付期間：－1月3日（土）。定員に満たない場合当日受付あり〕

料金：2500円（材料費込/大きな模様をご希望の場合追加料金がかかる場合があります）

・トークプログラム②

三瀬夏之介（美術家 東北芸術工科大学 教授）× 藤浩志（美術館 館長）『忠三郎と東北画』

「東北画は可能か？」のメンバーが、田中忠三郎との出会いから裂織作品の展開までをお話します。

*「東北画は可能か？」とは 三瀬夏之介を中心に2009年に東北芸術工科大学で結成された「東北」における「美術」を考えるチュートリアル活動。

日時：1月11日（日） 14:00－15:30

定員：50名（事前申込優先）

料金：無料（要観覧券チケット）

・トークプログラム③

大久保学（十和田市郷土館学芸員）『青森南部の暮らし』

日時：1月31日（土） 14:00－15:00

定員：50名（事前申込優先）

料金：無料（要観覧券チケット）

市民連携企画

「十和田のBORO探しています」

地元に眠っている襦袢や刺し子等の古い衣服をリサーチし、写真撮影や資料を作成する。

特別連携プログラム

アミューズミュージアム

布の絵画BORO～美しいぼろ布展～

（会期）2014年10月3日（金）－

会場 布文化と浮世絵の美術館 アミューズミュージアム

〒111-0032 東京都台東区浅草2-34-3

Tel. 03-5806-1181（10:00－18:00・月休）



田中忠三郎コレクションを中心に、日本の農民・漁民が暮らしの中で使用していたツギハギだらけの衣類のアート性に着目した展示を行います。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 佐々木美華子

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

プレス画像

田中忠三郎



天羽やよい



泉山朗土



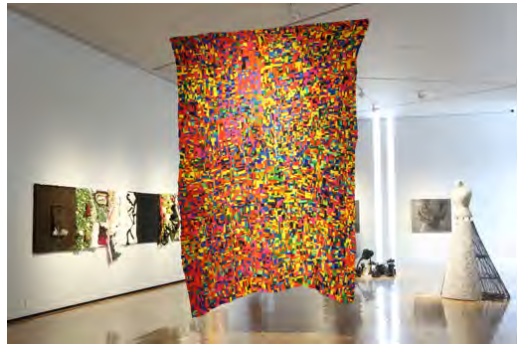
平田哲朗



伏木庸平



村山留里子



山下陽光



リトゥンアフターワーズ



お問い合わせ

十和田市現代美術館 佐々木美華子

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

クレジット

田中忠三郎 田中忠三郎コレクション「ドンジャ」 写真提供：アミューズ ミュージウム
天羽やよい 天羽やよい
泉山朗土 泉山朗土「名前のない道」
平田哲朗 平田哲朗
伏木庸平 伏木庸平
村山留里子 村山留里子 「果てしなく近い楽園」展示風景、秋田県立美術館
Courtesy of YAMAMOTO GENDAI © Tomoki HIROKAWA
山下陽光 山下陽光
リトゥンアフターワーズ writtenafterwards © Yoshiharu Ohta

お問い合わせ

十和田市現代美術館 佐々木美華子

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

参加アーティスト略歴

■ 田中忠三郎 Chuzaburo Tanaka

1933年青森県生まれ。民俗学者・民俗民具研究者・著述家。民具の調査・収集に奔走してきた在野の学者で、私有する2万点以上に及ぶ民具・衣服などの貴重な日本のアンティークコレクションでも有名。これらコレクションは柳宗悦、青山二郎、白洲正子らの流れを汲む「用の美」を体現するものとして、寺山修司、黒澤明、都築響一らが作品制作のために借り受けた。またこの他に所有する古書・近世文書のコレクションも1万点を超える。歴史学者はもとより棟方志功や高橋竹山ら芸術家・文化人との交流も深い。2013年没。

■ 天羽やよい Yayoi Amo

1948年東京生まれ。1975年八戸に移住。1977年より南部菱刺しを始める。1981年刺し糸である木綿糸を染めるため、草木染めを始める。1984～93年モノ作り集団「くえてまてん」参加。1984～08年に第1～9回個展開催（八戸、東京）。88年より南部菱刺し教室「梅の花工房」主宰。1991～96年小規模作業所通所者と共に菱刺しをする。1993～06年五戸公民館で講習開催。1994、98、09年梅の花工房展。1999年フランス人陶芸家との二人展（パリ）。2001年より織りの勉強を始める。2003、06年五戸菱刺愛好会作品展。2005、08年天羽やよい「南部菱刺展」（東京スペースたかもり）2012年第10回個展（八戸、東京）

■ 泉山朗土 Road Izumiyama

1974年東京生まれ。映像作家。武蔵野美術大学卒。2004年に映像制作プロダクションrecomemo workshop & studio設立。撮影監督としてSusan Norrieの全撮影を手掛けた"SHOT" Edinburgh International Festival 2009/"TRANSIT" YOKOHAMA TRIENNALE 2011に出展。近年、震災後の宮城県女川町での取り組みを記録したドキュメント制作や、障がい者表現活動をテーマにしたプロジェクト「Lifemap」に参画のほか、越後妻有トリエンナーレにて行われるアートツーリズムを映画化するなど、社会活動としての映像制作に取り組む。

■ 平田哲朗 Tetsuaki Hirata

1962年香川県生まれ。美術家／特定非営利活動法人アートNPOヒミング 理事長。富山県氷見市在住。1988年東京藝術大学大学院美術研究科修了。1993年「ザ・ギンブラート」参加、PCP（ピンクサークルプロジェクト）出品。1993年～95年ギャラリー「TRANS×TRANCE VISION」美術展覧会企画、主宰。小沢剛展「相談芸術 SODAN ART」角田俊也展「サウンドインスタレーション」等。「COSMO VISION」ライブパフォーマンス（新宿パークタワー）。2004年からビデオアートプロジェクト「氷見クリック」プロデュース。2006年からサステイナブルアートプロジェクト「ヒミング」プロデュース。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 佐々木美華子

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

■ 伏木庸平 Yohei Fusegi

1985年東京生まれ。近年は、刺繍をちくちくと縫い続ける日々を送っている。「イメージフォーラムフェスティバル 2010」(新宿パークタワー、横浜美術館ほか、2010年)、「TRANS ARTS TOKYO」(旧東京電機大学、2012年)、「ポコラート全国公募展 vol.3 受賞者展 金崎将司×伏木庸平」(3331 Arts Chiyoda、2013年)、「ポコラート宣言 2014」(3331 Arts Chiyoda、2014年)などで作品を発表。

■ 村山留里子 Ruriko Murayama

10代後半から独学で染色をはじめ、自らが染め上げた生地を細かく縫い合わせた布作品やビーズ、造花、アクセサリーなどを即興的に組み合わせた立体作品を発表している。過剰であり装飾的でもある作品は、モノそのものというよりも、それに関わりをもつ体や体を取り巻く文化がどのようなものであるかにまで私たちの想像力を誘う。これまでに、金沢21世紀美術館や森美術館をはじめ、国内外の数多くの展覧会に参加するとともにファッションブランドとのコラボレーションも行っている。

■ 山下陽光 Hikaru Yamashita

1977年長崎生まれ。高円寺の古着屋「素人の乱シランプリ」元店主。「途中でやめる」という名前の服を発表するかたわら、戦後原爆ドームの前に出来たアトム書房という本屋の調査と研究発表を行っている。素人の乱月曜ラジオ担当。2013年「超訳 びじゅつの学校」(十和田市現代美術館)に参加。

■ リトゥンアフターワーズ writtenafterwards

writtenafterwards は、2007年、山縣良和と玉井健太郎(2009年に辞任)によって立ち上げられ、21 __ 21 design sight にて初の展示を行う。2008年に東京コレクション初参加。2009年オランダアーネムモードビエンナーレにてオープニングファッションショーを行なう。コレクション、展示会、ショーなどをファッション表現を通じて、社会的、文化的、教育的、環境的観点を持った新たな人と人との関係性を創造して、新しいファッションの役割を提案している。